



「声」の欄・投稿規定

★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽に寄ってください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。

★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。

★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。

★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-6838-9222）とE-mail（アドレス：hifubyoh-shinryoh@kk-kyowa.co.jp）にても受け付けております。

★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

絵本や、趣味の雑誌のように 楽しませていただいています

編集部の皆さま

お変わりなくご活躍のこととお喜び申し上げます。

齢とともにくたびれやすくなりましたが、田舎町の開業医を続けています。何かと心細くなってきた日々ですが、幸いに、郷里の盛岡で家族がお世話になった伊崎正勝先生のご子息、伊崎誠一先生が定年後の居場所の一つとして、うちの診療所においでくださいました。とても心強い気持ちで毎日を過ごしております。少しずつ身の周りの整理をして、雑誌の購読も減らし、創刊号から購読している、貴誌だけを残しました。「明日からの診療に役立てよう」などと思わずにのんびりと、楽しく読ませていただいています。まるで、絵本か、趣味の雑誌のように…。一昨年に大腸がんの再発で入院することになった日、“運よく”貴誌12月号が届きました。入院中、上出良一先生の「私の歩んだ道」を拝読して明るい気持ちになりました。

西山先生の「蝶の博物詩」、斉藤先生の「診察室の四季」、浅井先生の「皮膚科のトリビア」、それに「皮心伝心」、興味深く楽しい読み物です。諸先生の「私の歩んだ道」も感銘深く読ませていただいております。昨年2月号の落合豊子先生の「Ad Astra Per Aspera」（“困難を克服して栄光を獲得する”の意味）は、本当にそうですね。7月号の宮地良樹先生の面目躍如の“歩まれた道”にも感動しました。

6月号の東部支部学術大会のデルマトオーケストラは、どれほど楽しかったことでしょう。オーケストラといえは数年前、World Doctors Orchestra、世界中のドクターに呼びかけてメンバーを集めたコンサートを楽しみました。仙台の女性医師だけの合唱団「Bona por Sano」の先生方と一緒に歌わせていただいた日のことも思い出しました。

人工肛門を造設した私ですが、できることは、まだたくさんあります。術後、皮膚と粘膜の接合部から出てきた小さい金属片が、腸間膜の止血に使うクリップだったり、ストーマ周囲にできた大豆大の肉芽は、上出先生のおっしゃるように炭酸ガスレーザー蒸散を受けないといけないかと思ったら、これも“運よく”G社のD軟膏の塗布により、2週間ほどで消失したり、少しずつのかぶれをステロイドのクリームでなだめたり、いろいろな経験を重ねております。人工肛門には括約筋がないので、勝手放題にいろんな形のもので出てきます。ストーマをかわいい芸術家と思い、出てくるものを芸術作品と思うと毎日が楽しく過ごせます。なんでも、前向きに楽しむのはいいことですから。

伊崎先生がいらっしゃったことにより時間にゆとりができた結果、往診依頼が増え、在宅の方、施設などの方々ともお付き合いがますます増えました。84歳、もう少し、町の皮膚科医として頑張ります。

佐瀬くらら

（飯能市・本町診療所）